

# 櫻だより



氷見市立北部中学校  
校長室から  
令和8年3月23日

## 「この道」

先日、卒業を間近に控えた3年生が、  
「校長先生、父が学校HPの櫻だよりのファンなんです」と、教えてくれた。  
徒然草ではないが、心にうつりゆくよきなしごとを、そこはかとなく書いたものを読んでいただき、ありがとうございます。

振り返ると、学級担任時代に「桜組」なる学級通信を20年ほど書いた。  
少しふざけた文書を書いたときは、校長室に呼ばれ厳重注意を受けた。  
そんな人間が、注意を受けた校長室で執務を行っている。人生とは不思議なものである。

教頭になり、先輩の森T教頭から勧められ教頭だより「櫻だより」を書いた（5年間）。  
初めての校長は小学校。やはり「櫻だより」を書いた。  
すると教職員から「これは学校HPに載せ、皆さんに読んでもらいましょう」と言われた。  
そして北部中学校でも学校HPにひっそりと掲載し始め、現在に至る。  
時折、他市の教職員の方から「最近書いてないですね」と言われることもあった。

「桜組」20年、「櫻だより」10年、計30年。そこはかとなく、よく書いてきたと思う。  
「徒然なるままに」の時は、発行回数も増えたが昨年と今年は・・・。  
発行回数が少なかった年は、執筆者の業務が充実していた年とご判断願いたい。

さて、私の教員人生も終着駅が近付いてきた。  
順風満帆に見えるかもしれないが、実際には「もう無理かも」と思ったことが何度か。  
それでも、諸先輩方や同僚、家族に支えられ、そして時には生徒、保護者の方に励まされながら、  
辞めずに続けることができた。

40代、「この道より我を生かす道なし この道を歩く（武者小路実篤）」という言葉に出会い、  
自分も実篤翁のように「この道」を退職までしっかりとやり抜こうと思った。  
50代、優れた同級生と比較し、「本当にこの道でよかったのか」と再び考えていた頃に  
「大切なのはどの道を選ぶか迷うことより、選んだ道をどう生きるか(ブリジット・バルドー)」  
という言葉に出会い、この道を一杯生きてきた自分が認められた気がした。  
と同時に、60歳以降も「選んだ道をどう生きるか」の言葉を胸に歩いて行こうと思った。  
そして、自分が元気をもった言葉なので、卒業生へのエールとして式辞に引用した。

何かを成し遂げてきた先人達の言葉には、言霊、力が込められている。  
そんな言葉から力をもらい、悩みながら、迷いながらも「この道」を歩むことができた。  
力強い言葉を残してくれた先人に、そして元気が出る言葉をくれた生徒にも感謝である。  
今後それぞれの道を歩む皆さんも、言葉から力をもらって頑張っていたきたい。  
私も4月から新たな可能性に挑戦し、頑張っていく予定です。  
これまで、本たよりを読んでいただいた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。